

2025年度

さかい福祉と介護の 実践発表会

令和7年11月15日(土)

関西大学 堺キャンパス
〈オンライン同時開催〉

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会

2025年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

令和7年11月15日(土)

関西大学 堺キャンパス オンライン同時開催

企画分担者 関西大学人間健康学部 教授 種橋 征子
教授 植田 紀美子

挨拶 堺市 健康福祉局 長寿社会部 部長 佐野 庸子
堺市老人福祉施設部会 会長 西尾 正敏

◆高齢分野 (SA202 教室)

第1部 市内福祉現場で働く職員による実践発表会 (13:00-16:00)

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もずの音	服部 良美	「FasH」～次世代人材育成の軌跡～
演題2	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	藤並 勇氣 延川 弥生 西尾 正敏	ヒヤリハットを活かす！ 生成 AI による気づきと仕組みづくり
演題3	社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム陵東館	大浦 ひとみ	重度者寝たきり度の高い人への口腔ケア
演題4	株式会社 LYKKE LYKKE みいけ	丸岡 千秋 佃 彰	神経難病特化型シェアハウスにおける 「その人らしさ」と「家族との幸せな時間」の支援
演題5	社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もずの音	芳田 青空	趣味と共に過ごす居室
演題6	社会福祉法人 悠人会 ベルアルプデイサービスセンター	大熊 郁子	利用者主体性を重視した レクリエーション活動の再構築 ～認知・身体・意欲の3視点による取り組みと成果～
演題7	株式会社 ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが	土谷 雅弘	独居認知症高齢者をさりげなく支える ～一人暮らしであっても、今の家に住み続けたい～
演題8	社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘	中谷 小晴 イシャラ アチニ	スリランカスタッフと作る！ 利用者さんのふるさとマップ

第2部 表彰式 (16:00-16:30)

- ・ 講評
- ・ 事業所表彰、職員表彰

◆障害分野（SA201 教室）

第1部 障害福祉分野における小規模事業所の協働化モデル事業 （厚生労働省事業）の成果報告会（13:00-13:40）

	グループ名	発表者	演題名
演題1	堺市中区協働コンソーシアム	株式会社 inC 梶 兼	1,600万円分の効果を生み出した協働実践
演題2	堺障害児（者）施設部会	社会福祉法人 コスモス 墨 光子	堺障害児（者）施設部会の協働化の取り組み

第2部 市内福祉現場で働く職員による実践発表会（13:40-16:00）

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 ライフサポート協会はびな	井上 真人	「コミュニケーションは、冒険だ」 ～小さな一歩が世界を広げる。 毎日がチャレンジの連続～
演題2	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」	坂口 幸希	安心の楽温泉～リフト入浴のある日常～
演題3	株式会社 PEACE カラーピース作業所	小林 萌子 前嶋 祐汰	キッチンカー販売・物販・パン販売から 就労を描く
演題4	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」	佐々木 洋一	皆が輝く紬「あけぼの」
演題5	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの	定野 実保 筒井 真由美	個性を活かした創作活動と 「やりたい」気持ちを引き出す支援について
演題6	株式会社 GVP マネージメント みるくはうす	山中 義昭	失われた日常を取り戻す ～障がい児と高齢者の交流を通じた 新しい福祉のかたち～
演題7	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園	稲田 公志	意思から自立へ
演題8	社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 集い「あけぼの」	金森 美渚海 谷口 宜応 長倉 恵理子	ご利用者様の気持ちに寄り添った支援を考える
講 評			

目次

《高齢分野》

◆市内福祉現場で働く職員による実践発表

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

「FasH」～次世代人材育成の軌跡～

1

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もずの音

テーマ：サービスの質の向上部門／自立支援・重度化防止のための取組

ヒヤリハットを活かす！生成AIによる気づきと仕組みづくり

2

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：サービスの質の向上部門／自立支援・重度化防止のための取組

重度者寝たきり度の高い人への口腔ケア

3

社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム 陵東館

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

神経難病特化型シェアハウスにおける

4

「その人らしさ」と「家族との幸せな時間」の支援

株式会社 LYKKE LYKKEみいけ

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

趣味と共に過ごす居室

5

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム 大仙もずの音

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

利用者主体性を重視したレクリエーション活動の再構築

6

～認知・身体・意欲の3視点による取り組みと成果～

社会福祉法人 悠人会 ベルアルプデイサービスセンター

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

独居認知症高齢者をさりげなく支える

7

～一人暮らしであっても、今の家に住み続けたい～

株式会社 ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

スリランカスタッフと作る！利用者さんのふるさとマップ

8

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 槇塚荘

《障害分野》

◆障害福祉分野における小規模事業所の協働化モデル事業 (厚生労働省事業) の成果報告

1,600万円分の効果を生み出した協働実践 11
堺市中区協働コンソーシアム

堺障害児(者)施設部会の協働化の取組み 12
堺障害児(者)施設部会

◆市内福祉現場で働く職員による実践発表

テーマ：その他(コミュニケーション支援)
「コミュニケーションは、冒険だ」 17
～小さな一歩が世界を広げる。毎日がチャレンジの連続～
社会福祉法人 ライフサポート協会 はびな

テーマ：入浴や排せつ、食事のケア
安心の楽温泉～リフト入浴のある日常～ 18
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」

テーマ：地域との連携／就労への支援／創作的活動や生産的活動
キッチンカー販売・物販・パン販売から就労を描く 19
株式会社 PEACE カラーピース作業所

テーマ：創作的活動や生産的活動
皆が輝く紬「あけぼの」 20
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

テーマ：創作的活動や生産的活動
個性を活かした創作活動と「やりたい」気持ちを引き出す支援について 21
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの

テーマ：その他(世代を越えた関係性の構築)
失われた日常を取り戻す 22
～障がい児と高齢者の交流を通じた新しい福祉のかたち～
株式会社 GVPマネジメント みるくはうす

テーマ：創作的活動や生産的活動
意思から自立へ 24
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園

テーマ：その他(寄り添い支援)
ご利用者様の気持ちに寄り添った支援を考える 26
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 集い「あけぼの」

《 高 齢 分 野 》

市内福祉現場で働く職員による実践発表

テーマ：人材育成部門／人材育成のための取組

「FasH」～次世代人材育成の軌跡～

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム大仙もずの音

生活相談員：服部 良美

●事業所・サービスの紹介

平成24年12月に開設。特養80床、ショートステイ20床、デイサービス、ケアプランセンターを併設。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

平成22年から毎年、法人内研修としてリーダー育成研修「天地塾」を外部講師を招き実施してきたが、外部講師頼みになっていることや、新たな研修を組み込む上でコスト面の課題も避けては通れなくなった。

そこで過去にリーダー育成研修「天地塾」を受けたメンバー（以下、卒業生）が運営側となり、一から研修の内容を考案し、新たなリーダー育成研修会として取り組んだ。

【具体的な内容】

- ①みささぎ会の求めるリーダー像を再定義
- ②ネーミング、研修内容の考案、受講生の選定
- ③研修カリキュラム（あるあるRPG、ウルトラマンスピーチ、接遇向上、先輩講和～俺の話をきけ～、ユニフォーム改訂チャレンジ）
- ④考察 研修カリキュラムを通じて、受講者が得たものと運営メンバーが得たもの
- ⑤今後の展望

【取組の成果】

- ①研修の企画運営に初めから関わることで研修をつくる大変さや人材育成の難しさを体感できた。
- ②リーダー経験がある者が運営側に多かったので、現場に即した内容を作ることができた。
- ③現在もこの研修のアドバイザーとして、コンサルタントに参画してもらっており、そこからの脱皮が残された課題の一つになっている。

テーマ：サービスの質の向上部門／自立支援・重度化防止のための取組

ヒヤリハットを活かす！ 生成AIによる気づきと仕組みづくり

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

介護士：藤並 勇気／介護支援専門員：延川 弥生／施設長：西尾 正敏

●事業所・サービスの紹介

堺市の南部に位置し、泉北・光明池ニュータウンに隣接。住宅街と少し離れており、四季の移り変わりが楽しめる静かで自然豊かな環境です。入所 114名、ショートステイ 16名の従来型特養を中心に、デイサービス、居宅介護支援事業所を併設しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

当施設のヒヤリハットは手書きで枚数も多いため電子化しておらず、内容の分析は職員の主観で行ってきた。しかし、正確な分析を求める声も職員から上がっており、分析の省力化にAI（ChatGPT）が有効か否かの検証を行った。

【具体的な内容】

ヒヤリハットは施設内の事故を未然に防ぐ効果があるとして、「多く書く！」を目標に質より量を優先する工夫をしてきた。そのため記載内容を評価することは考えておらず、分析には大量の手書きの帳票を電子化する必要があった。この作業には時間がかかるため、評価は職員の主観で行ってきた。この度、① ヒヤリハットの記入済み帳票をAIで文字起こしし、その変換時間や精度を検証。② 記載内容の分析を職員とAIで行い、その結果を比較することで、AIがヒヤリハットの分析に有効か否かの検証を行った。

【取組の成果】

- ① AIによる文字起こしは人の手で行うよりも時間は短縮されるが、その変換率は約56%で、業務にはそのまま活用できない結果となった。誤変換は自由記載による表記のゆらぎや判読困難な文字によるところが大きい。
- ② 内容分析でAIは項目別の集計を根拠に、事故のリスクを評価、対応策などの提案を10分以内に示した。職員では延べ150分かかり、注目の利用者や気になる事項を中心に分析、記載事項に自己の経験を加えて分析が行われていた。これは職員の経験値が読取り、分析、対応や処理時間に影響することを暗示している。また、情報量が多くなると重要事項を見落とす可能性も示唆された。

総括：AIを使用すると文字起こし→ 分析 → 対策の作成時間は短縮された。文字起こしは検討の余地ありだが、電子化資料をAIで分析し、その内容を会議で具体案とする方法は業務の効率化や安全の向上に資すると考えられた。

今後の課題として、現在手書きの帳票を、簡便に電子化することが今後のキーポイントとなる。また、分析には施設固有の状況をプロンプトに反映したり、分析内容を統一し指示の簡略化を行う、GPT sによる自動化も考えられる。

テーマ：サービスの質の向上部門／自立支援・重度化防止のための取組

重度者寝たきり度の高い人への口腔ケア

社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム陵東館

介護主任：大浦ひとみ

●事業所・サービスの紹介

堺市の仁徳天皇陵古墳の東に位置することから「陵東館」と称する、堺市北区にある特別養護老人ホームです。利用者が過ごす居心地のよい温かな雰囲気の場所を目指しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

様々な身体状況の変化、認知症状の進行に伴う変化等により、口腔ケアが大切だと分かっているにもかかわらず十分な取り組みない利用者がある。口腔ケアに課題がある方に対してどのような口腔ケアができるか、また口腔ケアに対する職員の不安や負担の軽減について考えた。

【具体的な内容】

利用者の方の口腔ケアについて聞き取りを行う。歯磨きを行えない方には①介助を行うが、うがいを行うことができなくなっている方、②今までの生活習慣や認知症状の進行で介護に抵抗があり口腔ケアを強く拒否する方の介助に困っていることが分かる。歯科医・歯科衛生士とのカンファレンスで相談し、少量の歯磨き粉であれば飲み込んでしまっても大丈夫であること、無理に介助するとより口腔ケアに対して拒否が強くなる為、負担なくできる口腔ケアを行ってほしいとの助言をもらう。うがいを行わなくても良い歯磨き粉やもっと何か良い方法が無いのか考えたところ、「ノンアルコール除菌液」というものを知る。

「ノンアルコール除菌液」は海洋ミネラルを多く含むホタテ貝殻焼成カルシウムを水溶化させたアルコールを含まないカルシウム系の除菌液である。口の中に入れても安全性が実証されており、いろいろなウイルスや菌を除菌できる為これを歯ブラシに吹きかけたり、口腔内に吹きかけブラッシングを行った。また拒否が強い方にも口の中へ吹きかける事で口腔内の細菌へ働きかけ、口腔内の状態を少しでも整えることができないか実施した。

【取組の成果】

うがいができない方への歯磨きを「ノンアルコール除菌液」を使用して行うことで、どうにかしてうがいをしないといけないという負担や誤嚥をさせてしまわないかという不安の軽減につながった。また舌ブラシでブラッシングをしても改善しなかった舌苔が「ノンアルコール除菌液」を使用しての舌ブラシで徐々に改善されきれいになった。

口腔ケアを嫌がる方へも口腔内への「ノンアルコール除菌液」の吹きかけ等できるケアを実施、介助者や口腔ケアに慣れてもらうきっかけとなるなど、拒否が強い方への介助者の不安や負担軽減となった。

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

神経難病特化型シェアハウスにおける 「その人らしさ」と「家族との幸せな時間」の支援

株式会社 LYKKE LYKKEみいけ

介護福祉士：丸岡 千秋／理学療法士：佃 彰

●事業所・サービスの紹介

難病特化型のシェアハウス。介護士、看護師、セラピストが在席し、充実した医療・ケアが受けられるとともにセラピストの評価の下、自立支援に向けた取り組みが日々行われています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・シェアハウスでの暮らし(できたこと、できるようになっていること)を日常にご家族と共有。
- ・暮らしの継続性
- ・「したい」を「できた！」へ昇華。家族と情報を共有し、実施までの計画を行う。

【具体的な内容】

「家族と鍋を囲みたい」「いちごが食べたい」というご本人の願いを叶えるため、多職種で連携し、嚥下機能や日中の体調を考慮した安全な方法を検討した。
実現困難と思われた鍋パーティーは、ご家族の協力も得て、特別な時間に。さらに、いちご狩りの思い出を再現した「ベッド上でのいちご狩り」を企画し、五感で楽しめる喜びを提供した。

【取組の成果】

ご本人の「したい」という願いに対し、多職種とご家族が話し合いを重ね、嚥下機能や病状に合わせた安全な方法を検討した。実現が難しいと思われた願いに対する成功は、ご家族との絆を深め、生活の質が向上した。また、シェアハウス入居後も家族との幸せな時間を過ごせたことで、病状の進行を穏やかに受け入れ、その人らしい人生を歩むことができた。これらの取り組みは、ケアの中で「できない」ことではなく、願いを「できる」に変える取り組みとなった。

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

趣味と共に過ごす居室

社会福祉法人 みささぎ会 特別養護老人ホーム大仙もずの音

介護福祉士：芳田 青空

●事業所・サービスの紹介

平成24年12月開設。特養80床、ショートステイ20床、デイサービス、ケアプランセンターを併設。利用者のやりたいことを叶える主訴実現を行っており、外食レクや1泊旅行などの外出支援を行っています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

入職2年目を対象としたフォローアップ研修で「認知症ケアと住環境」について学び、そこで得た学びを元にA様の住環境の見直しについて取り組んだ。A様は昼夜逆転傾向が見られ、日中に疲れて食事や水分が進まないことが多い。共有フロアでは他利用者様の大きな声や騒音が苦手で酷く疲れている様子も見られる。その為か、日中居室に戻り、臥床希望されることが増え、居室が寝る為の場所になっていた。

【具体的な内容】

- ・ A様に生活での悩みや希望、趣味の聞き取りを行った。ご家族にはA様の聞き取り内容を共有し、自宅で生活されていた様子やご家族の悩み・希望について聞き取りを実施した。
- ・ 聞き取りした内容をフロア職員に共有を行った。
- ・ 聞き取り内容から住環境に着目し、読書ができる空間を設け、自身で動けるように動線を広くしレイアウトを変更した。
- ・ 居室レイアウト変更後に「本が買いたい」と希望があった為、外出支援を行った。

【取組の成果】

日中臥床を希望することが減り、自室で数時間集中して読書や塗り絵に取り組む様子が見られリラックスされている様子が伺えた。また、「今日はお部屋で本読む」「この本が読みたい」「借りに行きたい」「今はみんなとテレビが見たい」と意思表示されることが増えた。それは、生活意欲の向上と職員との関係構築ができたと考える。A様の想いや希望をご家族に伝えることで、ご家族が知らなかった思いを知ることができ、両者を繋ぐ役割を果たすことが出来た。

再アセスメントを行うことで本氏の声を聞けていなかったことが分かった。今回の取り組みを経て、A様への理解を深めることが出来た。

今後もA様の生活歴や嗜好を取り入れた支援を行い、自発的に活動に参加しやすいよう、声掛けや選択肢の提示を工夫し、自己決定の場面を増やしていく。さらに、職員間での情報共有を継続し、フロア全体で一体となって支援を行うことでA様が安心して思いを表出できる環境づくりを定着させ、QOLの向上・維持につなげていきたい。

【参考数値】 ※介護記録を元に算出

日中活動時間平均 1 時間未満→ 1 時間半程増加

入眠時間約 3 時間程増加

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

利用者主体性を重視したレクリエーション活動の再構築 ～認知・身体・意欲の3視点による取り組みと成果～

社会福祉法人 悠人会 ベルアルプデイサービスセンター
介護福祉士：大熊 郁子

●事業所・サービスの紹介

当施設は「その人らしさを大切に笑顔溢れる生活」を理念とし、利用者の心に寄り添うケアの実現に努めている。

本報告では、サービスの質向上をめざした取り組みの一環として、「レクリエーション活動の見直し」に焦点を当てる。特に、認知機能・身体機能・活動意欲（企画）の3つの視点と、利用者による自己選択を重視した実践事例について報告する。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ①認知症の進行抑止・改善を図り、脳の活性化を促す個別学習の実施。
 - ②歩行・立位訓練による下肢筋力の維持・向上を目的としたウォークラリー方式プログラムの実施。
 - ③活動意欲を高めることを目的としたイベント企画の実施。
- 利用者が自らの意思で3つの活動を選択できるよう、サービス提供や環境整備を実践した。

【具体的な内容】

当施設では「その人らしさを大切に」を理念として掲げているが、実際には施設側からの一方的なサービス提供に偏り、利用者が自由に活動を選択できていない状況があった。この課題を解決するため、利用者と家族にアンケートを実施し、ニーズを詳細に把握。その分析結果を踏まえ、「認知機能の活性化」「身体機能の向上」「活動意欲の喚起（イベント企画）」の3つの視点から、新たなサービス計画を策定・提供した。

【取組の成果】

- ①認知機能面：MMSEを評価指標とし、個別学習プリントを提供。対象者14名の平均点が20.5点から20.9点へと0.4点向上した。
- ②身体機能面：ウォークラリーを導入し、対象者12名のBIが平均85.9点から86.7点へと0.8点向上した。
- ③活動意欲面：外出や室内イベントを増やしたことで、7回のイベント実施で延べ16名の追加利用があり、稼働率向上にもつながった。さらに、メニュー表やポスターの掲示により、利用者が主体的に活動を選択できる環境を整備した。その結果、「自ら選び、主体的に参加できる」という実感につながり、ケアマネジャーや家族にも客観的データとしてフィードバックすることで、より質の高いチームケアの実現にも寄与できたと考える。

【参考数値】

2025年 活動前MMSE・BI評価と活動後のMMSE・BI実測データ

※MMSE：Mini-Mental State Examinationの略。認知機能进行评估するためのテスト

※BI：Barthel Indexの略。日常生活動作（ADL）の自立度を評価する指標

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

独居認知症高齢者をさりげなく支える ～一人暮らしであっても、今の家に住み続けたい～

株式会社 ほほえみネットワーク竹城 コミュニティサロンはつが
生活相談員：土谷 雅弘

●事業所・サービスの紹介

コミュニティサロンはつが
堺市南区柵にある地域密着型デイサービス

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・一人暮らしを支えるための創意工夫
- ・個々の方に応じた生活サポート
- ・チームでの共有

【具体的な内容】

- ・（背景）一人暮らし、認知症高齢者の数は増えていくものと思われる。一人暮らしで認知症を有すると、ともすれば自分の気持ちと裏腹に、一般的に、安全を優先される。
- ・（可能性）認知症があっても、一人暮らしが出来ないわけではなく、少しのサポートで生活することは可能。
- ・（活動）認知症に対する偏見や誤解を生じることがないように、早期発見のため、地域への掘り起こし啓発に力を入れている。

【取組の成果】

- ・デイサービスの送迎時、忘れて、不在なことがあった。本人の行動を読み取ることで、本人の外出範囲をつかめることが出来た。GPS機能を備えた機器を取り入れ、一日無事に過ごされることが増えた。
- ・曜日の感覚が薄れてこられて、ゴミ出し等、不便になった方がいらっしゃった。その地域事情を調査したうえで、ヘルパーの送り出しや出迎えを位置づけることなく、デイ単体で生活リズムが確立できた。
- ・家族や関係者がチームとなり、在宅生活を一日でも長く伸ばすことが出来た。

【参考数値】

堺市での一人暮らし高齢者数、認知症高齢者数
当該デイサービスでの一人暮らしの割合（令和以降）

テーマ：サービスの質の向上部門／利用者個々の個性や生活リズムを尊重した取組

スリランカスタッフと作る！利用者さんのふるさとマップ

社会福祉法人 上神谷福祉会 特別養護老人ホーム 榎塚荘

介護職：中谷 小晴／介護職：イシャラ／介護職：アチニ

●事業所・サービスの紹介

73名のご入居者さま、10名のショートステイ利用者さま、計83床の特養です。ユニットケア型と従来型のフロアがご選べいただけます。ノーリフトケアに力を入れており、双方に負担の少ない介護をめざしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

外国人スタッフが増え、利用者さまとの会話によるコミュニケーション不足が課題。利用者さまとのコミュニケーションツールになるものがあれば、職員も利用者さまも楽しく言葉や笑顔を交わす機会が増えると考えた。スリランカスタッフ2名はまだ来日して3か月未満。日本のことを知る、利用者さまのことを知る機会として地図作りに参加してもらい、施設全体で地図を活用したコミュニケーションに取り組んでいる。

【具体的な内容】

きっかけは、三線ボランティアさんが「わたしは鹿児島出身です」とおっしゃった時に、1人の利用者さまが「おれも！おれは屋久島！あとあの人は指宿やで、あんたはどこや？」と同郷の方同士で嬉しそうに言葉を交わされていたこと。「故郷の地名だけで、こんなにも盛り上がるのか」と改めて衝撃を受けた。

①取り組み前後で比較するために職員アンケート『故郷をどれだけ知っていますか？』を実施。

②4人の外国人スタッフに20名ずつ利用者さまの故郷の聞き取りを担当してもらう。

※認知症のため意思疎通が困難な方には聞き取りが出来なかった。これらの方とは違う形でコミュニケーションを今後も行っていくため、今回は聞き取りが出来る方をまずは対象にすることにした。

③地図作りを実施。

※日本地図をダウンロードして大きく引き伸ばして印刷し、利用者さまの顔写真を貼った。どこに掲示するのが一番利用者さんとの会話に繋がりがやすいか分からなかったので、パターションに貼り付けて移動式にした。

④地図を利用者さまとのコミュニケーションツールとして、実際に使用してもらった。

※最初はうまく活用できなかったが、『こんな風に使ってみよう』と、活用のヒントを掲示してみた。

⑤再度、職員アンケート『故郷をどれだけ知っていますか？』を実施。

【取組の成果】

イシャラさんとアチニさん、そして2人のベトナム人スタッフがA3サイズの地図を広げながら、日本人スタッフと協力して聞き取りを行った。聞き取り表を見て初めて「あの方が兵庫出身なんて全然知らなかった」など意外な発見があって楽しかった。また、あまり自分のことを話されない男性利用者さまが、ハッキリと自分の故郷を教えてくださいと、利用者さまの隠

れた力を見せていただく場面もあった。地図作りを通して、いつもフロアが違うのであまり関わる事がなかったイシャラさん、アチニさんとコミュニケーションを図ることができたのも楽しかった。地図を貼りだしてみると、利用者さまだけでなく、介護職も看護師も管理栄養士も興味をもって眺めてくださった。利用者さまと地図をみながら、指をさして自分の故郷を教えてもらい、そこから派生する会話を膨らませやすいように地図に新たな情報を付け足していった。1～5人（利用者83名中）の利用者さんの故郷しか知らなかった職員がほとんどだったが、取り組み後のアンケートでは飛躍的に人数が増えた。

今後は、この地図をつかったコミュニケーションを他にも企画していきたい。例えば、『〇〇さんと〇〇さんの故郷で有名なお菓子〇〇を作ってみましょう！』や、『〇〇さんの故郷の子守歌を紹介！』など、利用者さんの故郷にちなんだ内容のレクリエーションや、ご家族とも楽しみながら会話を広げていきたい。

《 障 害 分 野 》

障害福祉分野における小規模事業所の協働化モデル事業
(厚生労働省事業) の成果報告

1,600万円分の効果を生み出した協働実践

株式会社 inC
代表取締役：梶 兼

●グループ名

堺市中区協働コンソーシアム

●参加法人

株式会社inC（代表）、株式会社PEACE、株式会社りーどけあ、有限会社きいちご畑、ヤマト商工有限会社

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

堺市内には小規模な事業所が多数あり、多くは数名の正職員で運営され、職員一人ひとりが複数の役割を担っている。そのため日々の業務をこなすだけで精一杯であり、課題解決や改善の余力が少ない状況となっている。

人材不足がさらに負担増を招き、離職者が増えるという“負のスパイラル”が生じている。私たちは事業所同士の協働により人材不足の解消・職場環境の改善・生産性の向上を達成するために『人材募集・確保』と『人材育成・定着』の2つの軸で取り組みを実践した。

【具体的な内容】

『人材募集・確保』の取り組み

①事業所間の現況共有②事業所合同勉強会③外部向け発表会④PR動画制作⑤PRパンフレット制作

『人材育成・定着』の取り組み

⑥合同職員向け研修⑦職場環境改善アンケート⑧役割別職員研修の企画

→上記成果をまとめた報告書の作成

【活動の成果と評価】

協働の結果、次のような成果があった。

・作業時間の削減：約350時間（73%減）

・人件費の削減：約52万円

・事業費の削減：約400万円

・総費用効果（※事業費+人件費+効果検証を5事業所が各々行った場合の想定）約1,600万円
数値だけでなく、事業所単独では実現が難しかったPRツールや合同研修を実施できた。

【今後の課題】

人材不足に働きかける情報発信は課題でターゲットに届きやすい発信先の確保とスキルが重要である。そのため福祉事業所のための協働ではなく、教育機関や情報発信を強みとしている事業者との協働も行っていきたい。今回の協働関係を継続し、補助金に頼らない持続可能な仕組みをめざしたい。まずは役割別の合同研修の定期開催や職場間人事交流などからできることをやっていきたい。

堺障害児（者）施設部会の協働化の取組み

社会福祉法人 コスモス

理事長：墨 光子

●グループ名

堺障害児（者）施設部会

●参加法人

社会福祉法人 あすなろ会 堺福泉療護園
社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団 じょぶライフだいせん
社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会 支援センターしらさぎ
社会福祉法人 こころの窓
社会福祉法人 コスモス
社会福祉法人 堺あけぼの福祉会
社会福祉法人 堺あすなろ会
社会福祉法人 障友会
社会福祉法人 ばなな
社会福祉法人 まほろば パル・茅渟の里
社会福祉法人 あいわ福祉会 愛和・生活の家
社会福祉法人 きぼうの会 きぼうの風
社会福祉法人 こだま福祉会 障害者作業所こだま
社会福祉法人 サライ福祉会 デイセンターサライ
社会福祉法人 さんあい SOHOさんあい
社会福祉法人 ピノキオ福祉会 ピノキオ作業所
社会福祉法人 麦の会 麦の会共同作業所
社会福祉法人 みきた福祉会 みきた作業所
社会福祉法人 みのりの会 みのりの会作業所

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- 職員採用の協働化
- 職員育成の協働化
- 社会福祉連携推進法人の研究

【具体的な内容】

- 1 職員採用の協働化
 - (1) 障害児者福祉業界普及啓発のためのネットワーク調査（学校コンタクトルート等）
 - ・ 障害児者福祉業界普及啓発のためのネットワーク調査を行い、業界PR等に活用する。
 - ・ 堺障害児（者）施設部会（以下、施設部会）として照会調査した。
 - (2) 堺障害児（者）施設部会ロゴマークの作成
 - ・ 施設部会のシンボルとなるロゴマークを作成、事業受託先の株式会社エイデルより公募して施設部会の事務局メンバーで選定した。（施設部会ホームページ「サウダージ」等で活用中）

(3) 学校等向け障害福祉PRイベント（福祉教育Ver.）

- ・施設部会採用プロジェクトチームで実施しており、本事業で福祉教育バージョンとしてパッケージ化する。
- ・2024年10月28日（月） 南海福祉専門学校
- ・2024年12月9日（月） 大阪芸術短期大学

(4) 職員採用合同説明会イベントの試行（就職説明会Ver.）

- ・過去2年間にわたって採用プロジェクトチームで数回実施してきたが、参加人数が数名であり、市広報等でのPRを可能とするために行政との共催で開催した。
- ・2024年10月29日（火） ハローワーク福祉のお仕事理解セミナー
- ・2025年2月18日（火） 堺市（障害支援課）共催で採用合同説明会

(5) 共同パンフレット等の作成

- ・参加法人の採用共同パンフレットを株式会社阪南ビジネスにて作成。
- ・2025年2月18日（火）の就職イベントから活用中。

(6) 共同PR動画の作成

- ・採用に向けた共同動画と参加法人ごとの採用PR動画を株式会社d-worksにて作成した。
 - ・1～2月中に撮影し、3月に完成。
- ※全法人分を施設部会ホームページ「サウダージ」で公開中。

(7) 採用力向上のための研修

- ・法人での採用力を高めるため、採用担当者向け研修を実施した。
- ・採用のセオリーから採用活動のフェーズごとの留意点と具体的な手続きについて解説した。
- ・全4回（1月30日（木）、2月14日（金）、2月20日（木）、3月5日（水））
- ・各回10:00～12:00、オンライン研修

(8) 魅力発信チームのタレント養成研修

- ・採用PTのメンバー等に、障害児者福祉業界や仕事について普及啓発する人材を養成するため実施した。
- ・全3回（1月30日（木）、2月6日（木）、2月14日（金））
- ・各回15:00～17:00、対面方式（場所 障友会かぎろひ会議室）

2 職員育成の協働化

- ・階層別（新人・中堅・ベテラン・リーダー・管理職）の5種類の研修マニュアルを作成、モデル研修を実施した。
- ・面接研修・OJT研修・研修リーダー養成研修を実施した。
- ・本来はいずれも半日必要な研修だが、夜間の研修でも使えるよう1研修あたり2時間とした。

3 社会福祉連携推進法人の研究

- ・京都の社会福祉連携推進法人「きょうと福祉キャリアサポート」の視察を行った。（2025年1月24日（金）実施）
- ・京都府下の介護・障害・保育など7つの社会福祉法人が参画、設立して2年。
- ・以前から交流のある法人同士で人材確保等で連携していた。
- ・社会福祉連携推進法人としての連携内容は、
 - ①人材確保等業務
 - ・合同就職イベントの開催、社員法人間の人事交流など
 - ・7法人すべてが京都府の「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証を受けている。

②地域福祉支援業務

- ・ 社会福祉セミナーの開催、南山城学園が実施することも食堂への参加など
- ・ 事務局は最大規模の南山城学園が担っている。

【活動の成果と評価】

一法人ではなかなか作ることのできなかった求人用パンフレットや求人用動画を作成することができ、採用イベントも協働したことで開催することができた。同様に職員育成研修も協働実施することで効率的に実施でき、特に一法人では難しい管理職・指導職向けの研修を行うことができた。

(人材の定着・育成)

- ①コンサルタントの介入により、障害児者福祉業界の職場における標準的な階層別育成計画を作成することができた。

効果：作成にかかる時間(目安) 1法人8時間×19法人=152時間→検討会2時間×4回=8時間

- ②OJTマニュアルを共有したことにより、法人独自のマニュアル作成の基礎となった。

効果：作成にかかる時間(目安) 1法人12時間×19法人=228時間→検討会2時間×4回=8時間

- ③階層別(5階層)を共同開催したことにより、人材育成の機会を持つことができた。

効果：研修開催にかかる時間(目安) 1法人10時間×19法人=190時間→1回2時間×5階層=10時間

※各法人にて独自に講師を依頼した場合の費用についても協働で行うことにより効率化を図ることができた。

- ④研修にオブザーブ参加することで、研修テクニックを学ぶことができたとともに、今後はコンサルタントが作成した研修実施マニュアルをもとに、当施設部会において自立して開催するための基礎ができた。

(人材確保・採用)

- ①障害福祉のおしごとの説明会イベントにより、当施設部会独自に同様のイベント開催の際のノウハウを経験的に学ぶことができた。

効果：①採用における応募者の確保、就職希望者の獲得 0名×19法人=0名→イベント実施後8名

- ②採用力向上を目的とした研修の実施により、これからの採用活動に活かすことができる。

効果：研修開催にかかる時間(目安) 1法人8時間×19法人=152時間→1回2時間×4回=8時間

- ③魅力発信担当者の能力開発により、魅力発信をする際のポイントを知り、当研修を通して魅力発信のための資料を作成。

効果：研修開催にかかる時間(目安) 1法人8時間×19法人=152時間→1回2時間×4回=8時間
資料作成にかかる時間(目安) 1法人5時間×19法人=95時間→1回2時間×4回=8時間

- ④施設部会の認知度向上を目的としたロゴマークについて、公募という手法をとることを学び、93件の応募作品の中から、当施設部会のイメージに合ったデザインを採択、制作することができた。

効果：ロゴマーク制作にかかる時間(目安) デザインにかかる費用1作品30,000円×93件=2,790,000円→1作品 0円×93件=0円

- ⑤ネットワーク調査を実施したことにより、施設部会の今後の活動の手がかりを得ることができた。

- ⑥採用マニュアルにより、今後の活動に活用することができる。

【今後の課題】

（人材の定着・育成）

検討会を通して、人材定着・育成について協働して考えることができた。ただし、小規模の事業所については参加したくても業務上できないといった問題があるため、研修を動画研修として共有するなど、いつでも、どこでも研修を活用することができるよう、対策が必要であることが分かった。

また、階層別人材育成計画では、さまざまな能力が求められる職種であることを可視化することができたが、それらを習得するための研修を実施するためには、今回企画した2時間の研修では時間が不足していることがわかり、今後、企画内容、より参加しやすくするための周知の方法、参加のための動機付けが必要である。

（人材確保・採用）

「障害福祉のおしごと説明会」では多くの参加者があり、「障害福祉」の仕事に興味、関心を持つ人がいることが知ることができた。仕事の魅力発信についても、求職者や学生の関心を高めるためには私たちが日々行っている仕事についてあらためて見つめなおし、やりがいのある仕事であることを発信していく必要がある。

また、採用活動を効果的かつ効率的に行うためには、準備段階において情報収集をいかに行うか、また、いかに多くの関係者を巻き込んでいくかが重要なポイントであり、当施設部会では、多忙を極めるメンバーの協働により成り立っていることから、各法人への負担のかかり具合についても、今後視野に入れていく必要がある。

《 障 害 分 野 》

市内福祉現場で働く職員による実践発表

テーマ：その他（コミュニケーション支援）

「コミュニケーションは、冒険だ」 ～小さな一歩が世界を広げる。毎日がチャレンジの連続～

社会福祉法人 ライフサポート協会 はびな
生活支援員：井上 真人

●事業所・サービスの紹介

「はびな」は、18歳以上の障害のある方々が利用しています。

- 一人ひとりの個別性を大切にします。
- ご本人の強み（得意）を活かして社会との関わりをつくります。
- 自身の思いを相手に伝える方法について支援します。
- さまざまな経験を通して、好きなことをみつけ、生活を充実できるようにお手伝いします。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

主にPECS®（絵カード交換式コミュニケーションシステム）使用者を対象に、スタッフだけでなく、利用者間での要求やコメントの発信が自発的にできるように、まずは意図的に環境設定をして取り組んだ。

【具体的な内容】

少人数での活動を通じて共有の物を用意し、利用者同士が関わる必然性をつくることで、自然なやり取りが生まれるように工夫した。物の配置をスタッフではなく、他の利用者がもっている・操作している状況にし、「あの人に伝えたい」という必然性を作りました。やりとりが成功した時は、即座に褒めて、やりとりの楽しさや意味を体験できるように支援しました。

【活動の成果と評価】

環境設定を行ったことで、スタッフを介さずに利用者同士でPECS®（絵カード交換式コミュニケーションシステム）で「○○」「ください」などの要求がみられるようになりました。また、一部の利用者からは、「おはよう」「ありがとう」などのコメント表現も引き出され、伝える相手として他の利用者を意識する場面が増えています。単に伝える手段の習得にとどまらず、人との関わりを楽しむ姿勢の獲得にもつながっていると評価しています。

【今後の課題】

地域の中で、さまざまなコミュニケーション手段があることを知っていただくこと。それが、誰もが安心して暮らせるまちづくりの第一歩ではないかと考えています。

【参考資料など】

ロリ・フロスト、アンディ・ボンディ（著）、門眞一郎（監訳）（2006）『絵カード交換式コミュニケーション・システムトレーニング・マニュアル第2版』ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン

テーマ：入浴や排せつ、食事のケア

安心の楽温泉～リフト入浴のある日常～

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 楽「あけぼの」

生活支援員：坂口 幸希

●事業所・サービスの紹介

楽「あけぼの」は、令和3年4月に「入浴」と「リハビリテーション」をコンセプトとして開所しました。

入浴では、体の状態に合わせて寝て入れる寝浴、座って入れる座浴、一般浴を設置しています。

3つの合言葉「エンジョイ 楽しむ」、「リラックス くつろぐ」、「アクティブ 活動」をモットーにしています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

重度重複障害のある利用者様にとって入浴は「心地よい時間」であると同時に安全面への配慮も欠かすことができないため、今回私達は「安全の確保」と「心地よい入浴の時間の提供」を課題として取り組んだ。

【具体的な内容】

- ・リフト浴では肩までしっかり全身浴が出来るよう支援し、利用者様がよりリラックスできるよう心掛けた。
- ・リフトとネットを使用し、安全に浴槽へ移動して入浴できるよう支援を行った。
- ・脱衣所からの動線を整備し、職員二人で声掛けを行いながら入浴介助を行った。

【活動の成果と評価】

- ・リフトを活用したことで、スタッフや利用者様の負担が減少し、より安全に入浴をすることができた。
- ・全身浴が出来たことで、利用者様からも「楽温泉、気持ちよかった」と好評をいただいた。

【今後の課題】

- ・利用者様、一人一人に合わせた温度設定や雰囲気づくりのさらなる工夫が必要である。
- ・利用者様の「やりたい」を尊重し入浴以外の活動へも繋げていく必要がある。

テーマ：地域との連携／就労への支援／創作的活動や生産的活動

キッチンカー販売・物販・パン販売から就労を描く

株式会社 PEACE カラーピース作業所

管理者：小林 萌子／生活支援員：前嶋 祐汰

●事業所・サービスの紹介

開所時はキッチンカーの出店販売から始め、今年の9月より同法人内でフラワーベーカリーを施設外就労先としてオープンし、利用者様と共にパンの焼き上げから販売まで行っております。キッチンカーから接客を学び、パンの出張販売やパン屋を通して就労の視野を広げ、働く楽しさを感じてもらいます。創作活動が好きな方には、製作活動で作品作りを行い、作品の販売をしてもらい、お客様の手に渡り売れた喜びを大切にしております。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

「普通に生きたい」この言葉は、健常者でも障害のある人でも考え、悩むところです。普通でありたいと願い、手帳を持ったことに抵抗を感じ、一般の方と私は違うんだと認識している方の事例を紹介します。仕事をしていく上でのハンディキャップは時に高い壁となりやりたい気持ちを阻害されます。そしてご本人が乗り越える必要があります。フラワーベーカリーでの就労訓練で、学びと難しさや楽しさを実感してもらい、今後の就労に活かすまでの取り組みを実践しました。

【具体的な内容】

- ①キッチンカーでは主に高齢者施設にてかき氷やあんみつなど、利用者様とアイデアを出し、試作、試食を重ね、物撮り、ポップ作成、積み込みそして、販売。すべてに参加いただき、商品の盛り付け、提供、片付け、売り上げを受け取るまでして頂いております。
- ②出張販売先に合わせてパンの袋詰め、シール貼り、番重にパンを入れ個数を数え、販売、精算、商品のPOP作成など、できるところは積極的に参加して頂きます。
- ③編み物やレジンなど①や②に持参し販売活動、値付けや梱包も一緒に行っております。

【活動の成果と評価】

キッチンカーでの販売を通じて働く自信となり、商品を通じて、お客様との関係を築きます。その中に、就労につなげるきっかけがありました。発表事例の方はアルバイト就労を見てみたいと希望され、現在はフラワーベーカリーで就労訓練をしております。品出しから袋詰め、お客様との接客、洗い物と職員と共に働きだしています。これからは働く楽しさ、厳しさを学び、今後活かしてほしいと願っております。

【今後の課題】

フラワーベーカリーでの就労は始まったばかりでお客様の温かさもあり現在は順調に進んでいますが、フラワーベーカリーで働くための服装や、ご本人の特性による課題、言葉づかいなど普段の作業所でどのように進めるのか検討中です。働く楽しさを感じ、今後活かしてもらうために日々できるところを褒め、時に注意する中で出てくる障害ゆえの困難さにどう寄り添っていくのか難しい場面も多いです。パンが売れ、集客に向け、初めての経験にわくわくです。

テーマ：創作的活動や生産的活動

皆が輝く紬「あけぼの」

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 紬「あけぼの」

生活支援員：佐々木 洋一

●事業所・サービスの紹介

紬「あけぼの」は、平成30年4月に開所。太陽の光がたくさん入り、ワンフロアの明るい施設。18歳から20代前半の利用者30名ほどが通う生活介護事業所。室内では型染めでの商品づくりやレクリエーション、PT体操・歩行タイムを行い、身体を動かす機会を設ける。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・利用者様の意欲や喜びを引き出す。
- ・利用者様の強みや才能を引き出す。

【具体的な内容】

- ・イベントで使用するポスターや小道具を作る。
- ・詩や作文、絵画等を制作し展覧会等に応募する。
- ・自主製品作りや型染めを行っている。

【活動の成果と評価】

- ・職員間で活発に話し合いを重ねた結果、利用者様の喜びにつながる企画を実現できた。

【今後の課題】

- ・利用者様の為に何ができるかを常に考え、職員の専門性を高められる職場をめざす。

テーマ：創作的活動や生産的活動

個性を活かした創作活動と 「やりたい」気持ちを引き出す支援について

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 絆あけぼの
生活支援員：定野 実保／生活支援員：筒井 真由美

●事業所・サービスの紹介

周辺に公園や緑道など、緑の多い環境にある利用定員20名の生活介護事業所です。作業、創作活動、レクリエーション、調理実習の他、近隣公園への散歩や、様々な場所への外出活動をみんなで楽しんでいます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・利用者様とミーティングを行い、選んで頂いた作品の創作活動を行う。
- ・どのような材料を使用するか、作品のサイズや取り組み方などを一緒に考えて頂き、作りあげていく。
- ・日ごろからのコミュニケーションを活かし、興味のありそうな物や事でやってみたいを引き出す。

【具体的な内容】

- ・利用者様と行うミーティングで季節の創作などの違ったデザインのものを二つほど用意し、利用者様に選んで頂き、人気の高いものを制作している。
- ・施設内に飾る季節にあった創作の他、レクリエーションで使うゲームに使用する物や、運動会や夏祭りなどの飾りや道具を作る事で、四季を感じ、興味、関心を持っていただく。

【活動の成果と評価】

- ・利用者様それぞれの得意な事や出来ることを活かし、利用者様と支援員と一緒に楽しみながら取り組むことが出来た。
- ・それぞれが作った作品で、壁一面の大きな作品が出来上がった時の達成感は、次のやりたいにつながっている。

【今後の課題】

- ・日ごろから利用者様の興味や関心ごとを把握し、利用者様と支援員が一緒になって、今後も楽しみながら活動できるよう、より良い支援につなげていく。

テーマ：その他（世代を越えた関係性の構築）

失われた日常を取り戻す ～障がい児と高齢者の交流を通じた新しい福祉のかたち～

株式会社 GVPマネジメント みらくはうす

管理者：山中 義昭

●事業所・サービスの紹介

みらくはうすは、放課後等デイサービスとして、子どもたちが日常生活に必要な力を少しずつ身につけながら、仲間と一緒に過ごす中で協調性を育んでいく場所です。子どもたち一人ひとりが愛され、笑顔で成長していけるように、あたたかく見守り支えていきます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・現状の背景を明確化
「核家族化や地域のつながりの希薄化により、祖父母と孫世代が自然に交流する機会が減少している。」
- ・子ども・家庭からのニーズの洗い出し
「実際に、子どもや保護者から『祖父母との関わりが少ない』『世代間交流の機会がない』という声が多く聞かれる。」
- ・課題として整理
「子どもたちが多世代と関わる経験を持ちにくく、思いやりや社会性を育む機会が不足していることが課題である。」

【具体的な内容】

高齢者と子どもたちが世代を越えて自然に交流できるよう、まずは子どもたちのダンス発表を通して関わりのきっかけをつくりました。その後、誰もが参加しやすい遊びを取り入れることで交流を深め、さらに宿題や数字並べ、塗り絵などを共に楽しむ時間を広げることで、互いに学び合い、心のつながりを育む場へと発展させていきました。

【活動の成果と評価】

この取り組みを通じて、子どもたちは思いやりや集中力を育みながら、高齢者の方々から昔の知恵や遊びを教わることができました。一方で、高齢者の方々にとっても子どもたちと関わることで生きがいとなり、自然と笑顔や会話が増えていきました。「子どもは無条件に可愛い」「役に立ててうれしい」といった声も寄せられ、温かい交流が生まれています。こうした関わりは施設にも活気をもたらし、職員のやりがいにもつながりました。さらに地域に開かれた場としての新しい姿も見え始め、子ども・高齢者・施設のそれぞれにとって、やさしい広がりを感じられる成果となりました。

【今後の課題】

今回の取り組みを通じて、子どもや高齢者、施設や地域にさまざまな良い変化が生まれました。今後はこれを一過性で終わらせるのではなく、継続していける仕組みを整え、より多くの方が関われるような工夫をしていきたいと考えています。また、職員の負担を減らしながら無理なく進められる体制を作り、子どもと高齢者がともに楽しみ、学び合える活動を広げていきたいと思います。さらに、学校や地域団体、自治体とも連携を深め、地域に開かれた場として成長していけるような取り組みにしていきたいと考えています。

テーマ：創作的活動や生産的活動

意思から自立へ

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 堺あけぼの園

生活支援員：稲田 公志

●事業所・サービスの紹介

1995年、身体障害者通所授産施設（旧法）として開所しました。現在、定員30名で主に重度重複障害がある利用者様が通所されておりますが、近年では知的障害（強度行動障害）のある利用者様も通所されております。日々の活動は、重度重複障害・知的障害がある方も参加できる仕事（軽作業）・レクリエーション活動を行っており、全体行事では季節行事や日帰り旅行などを行っております。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

堺あけぼの園では5つの班があります。班の活動に作業やレクリエーションなどを取り入れて充実した日々を過ごしていただいております。施設の中で利用者様同士やスタッフとの関わりを持つことで社会（人との関わりを持つ場）との繋がりを持っていただいております。利用者様の目標や才能を引き出し、社会や地域に発信し幸福感や満足感を持てるような、より良い生活をめざしております。そういった自立に向けての支援、サポートの実践に取り組んでおります。お二人の利用者様を取り上げさせていただきました。

【具体的な内容】

Sさん

絵や習字がご趣味の利用者様で絵画を習いに行かれていましたが、コロナ禍になってから行くことが難しくなりました。そこでご趣味を施設で活かせるように自主製品のデザインをしていただこうと提案させていただきました。自主製品の販売に限らず、作品展の出展にもお声をかけさせていただきました。

Kさん

堺あけぼの園に来られて午前は作業、午後からレクリエーションを基本に活動を行っている班に配属になりました。日々の活動の中で、お一人で取り組むことが多く、グループで活動するより、お一人で細かい作業を得意とされ、班での取り組みがご本人様にとって満足感や充実感が持てずにいるように見受けられました。ご本人様のご希望もあり、終日作業を行っている班に移動していただきました。

【活動の成果と評価】

Sさん

自主製品の商品である紙袋のデザインを依頼させていただくと、快く引き受けてくださり、ご自分のスマホのアプリで3日ほどで描画してくださいました。パソコンで利用者様と絵の配置など完成まで一緒に作成していききました。紙袋が完成した時、絵のデザインから紙袋になるまでの過程がとても楽しかったことを教えてくださいました。これを機会にいろいろと商品を作っていきたいという意欲もおありになり、Tシャツのデザインやデジタルアートなど自主製品として出品させて頂いたり、作品展にも積極的に出展されるようになりました。

Kさん

今年4月から作業中心の班へ移動になりました。初日からその班のリーダー的な利用者様とも打ち解けられ、共になって作業を行っております。毎日仕事ができる楽しいと教えていただきました。

【今後の課題】

Sさん

現在は自主製品の売れ行き低迷や、Tシャツを販売しているネット販売のお店が終了したこともあり、その方のご趣味を地域へ発信して行く上で、低調状態になりました。ご本人様は機会があればまたいろんな商品を出品していきたい意欲があります。ご本人様の意欲向上につながるよう自主製品の新商品のデザインや作品展の出展を継続していけるように情報収集し、ご本人様に提供していきたいと思います。

Kさん

将来、ご家族様から離れて暮らせるようになりたいお気持ちもあられ、ショートステイのサービスをご利用しております。今後、自立に対する前向きなお気持ちに添えられるような環境作りに取り組んでまいりたいと思います。

テーマ：その他（寄り添い支援）

ご利用者様の気持ちに寄り添った支援を考える

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 集い「あけぼの」

サービス管理責任者：金森 美渚海／生活支援員：谷口 宜応／生活支援員：長倉 恵理子

●事業所・サービスの紹介

堺市中区上之にある生活介護、集い「あけぼの」です。開所から20年を超える歴史を持ち、年配のご利用者様から20才前後の幅広い年齢層のご利用者様が通所されています。訪問散髪等、生活に密着したサービスを充実させながらご利用者様が楽しめる活動を行っています。2年連続堺市障害者スポーツレクリエーション大会のポスターにみんなで書いた作品が採用されました。そんな楽しい施設であります。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

色々な物が欲しくなるというご本人の要求特性についてどう支援をしていけばよいのかを考えました。私たちは、欲しい物を自由に手にする事を許されているのにAさんは許されないのか。支援を受けているから許されないのか。逆にどんどん渡してよいのか？どのように対応すればよいのかを日々考えながらAさんの気持ちに寄り添った支援を考え取り組みました。

【具体的な内容】

キーパーソンとなる職員の育成と役割を持つため第三者的にご本人の思いをくみ取り対応する人、絶対的な味方になる人（母・父の代わりになる人）が中心になりながらもっとたくさんの人がAさんに関わり、豊かな人生を歩んでご本人のやりたい事、願いをかなえていく。

【活動の成果と評価】

以前は特定の職員のみ気持ちを伝える事が多かったがキーパーソンを中心にたくさんの人が関わる中で、少しずつご自身の思いを特定の職員以外にも伝える事が増えてきました。

【今後の課題】

節度を持ちながら要望に対して受容し、又丁寧に説明し一部の職員への依存度をやわらげ色々な方としっかりご自身の思いを伝えて欲しいものは欲しい、我慢するところを理解できる人になって豊かな楽しい人生を歩んで頂きたいと思います。

2025年度
さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発 行
堺市 健康福祉局

長寿社会部 長寿支援課
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1
TEL : 072-228-8347
FAX : 072-228-8918
E-mail : choshi@city.sakai.lg.jp

障害福祉部 障害支援課
〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1
TEL : 072-228-7411
FAX : 072-228-8918
E-mail : shoen@city.sakai.lg.jp